

西濃農林事務所の普及活動状況

平成30年11月30日現在

今月の重点活動

■スナップエンドウ なす独立ポット耕栽培の後作でスナップエンドウを実証

農業普及課とJAにしみのでは、なす独立ポット耕栽培の後作として、スナップエンドウの栽培を実証している。

9月中旬に播種（種まき）したものは、11月中旬から収穫適期を迎え、直売所での販売を開始した。10月下旬に播種したものは、生育量が今一つの状況である。

農業普及課は、冬季の収穫を確保するため、ハウスのビニール被覆とポット部の被覆による保温、うどんこ病、ハスモンヨトウ等の病虫害防除について情報提供した。

今後、なすの独立ポット耕栽培の後作での有望な品目として、栽培技術の確立を図る予定としている。



【スナップエンドウの生育状況】

■GAP 認証GAPに取り組む新組織の立ち上げ～神戸町下宮青果部会協議会～

神戸町下宮青果部会協議会では、今までの下宮版独自GAP（簡易GAP）を発展させ、認証GAPへの取組みを強化するため、10月30日の事前協議を経て、品目をまとめた新たなGAP組織を設立することになった。11月8日にはGAP組織の立上説明会が開催され、組織の内容や規約等が説明された。農業普及課は岐阜県GAP確認制度に取り組むメリットや農場評価シートによるチェック項目について説明を行った。

これを踏まえ、11月19日には設立総会（名称：下宮青果部会協議会ごうど下宮GAP組織）、26日には農場評価シートを用いた第1回勉強会が開催された。農業普及課は勉強会での説明及び質疑対応を行った。今年度中の岐阜県GAP確認制度取得を目指し、集中的な支援をする予定である。



【設立総会の様子】

多様な担い手づくり

■梨 第4回「梨塾」を実施

大垣市の梨農家後継候補者7名を対象とした梨塾が、11月19日、大垣市ナシ生産連絡協議会が主体となり開催された。前半は、ほ場にて農業経営課の農業革新支援専門員が講師となり、慣行の梨園並びに平成29年に導入された根圏制御栽培梨園の剪定方法の実習を行い、理解を深めた。後半は、農業普及課から、次年度に向けた病虫害防除対策等の説明を行うとともに、梨を使用して試作した加工品（ジェラート）を提供し、皆で試食しながら、六次産業化について意見交換を行った。その他、JAからも、土づくり資材に関する情報提供があった。次回は1月に第5回（最終回）の梨塾を予定している。



【剪定講習会の様子】

売れるブランドづくり

■小麦 種まきが順調に進む（管内全域）

本年は10月下旬から天候に恵まれ、11月初めから管内全域で小麦の播種作業が開始され、イワイノダイチ、さとのそらとも適期の播種となっている。平成30年産で雑草が繁茂



【小麦の播種状況】

したほ場では、雑草対策に苦慮している生産者もあり、巡回等を実施しながら体系防除等の指導を行っていく予定である。今後は生育調査を行い、栽培管理指導に生かしながら、品質の良い小麦生産を関係機関と連携して支援していく。

■加工・業務用キャベツ 収穫・出荷が始まる（管内全域）

加工・業務用キャベツの出荷が、11月中旬から始まった。養老町では11月9日に出荷前会議が開催され、全農岐阜の担当者より出荷規格等について説明があった後、農業普及課から管内のキャベツの生育状況や病害虫防除等の情報提供を行った。今年9月の台風の影響で生育ムラが大きく一斉収穫は困難な状況ではあるが、気温が高めに推移したこともあり、収穫物は1玉2kg程度と十分な大きさとなった。順次、収穫作業が行われる予定となっており、収穫作業終了まで栽培及び収穫適期の指導を行う。収穫作業は、規格に合ったキャベツを鉄コンテナに詰め、出荷場まで運ぶ方法を取っている。農業普及課は作業改善に向けて各作業の時間、人数等の工程を確認した。



【鉄コンテナにキャベツを積める】

■ブロッコリー JAにしみの産ブロッコリー出荷始まる

ブロッコリーの出荷目揃会が、11月27日にJAにしみの本店において開催された。本年は10月31日より出荷が始まり、平年並みのスタートとなったが、多くの生産者は定植が遅れたため、出荷のピークは平年より遅くなる見込みである。

全農・市場より情勢、出荷調製の仕方、等級の見極め等について説明が行われ、農業普及課からは生育状況、今後の防除・栽培管理について情報提供を行った。



【ブロッコリーを確認する生産者】

■いちご 西濃地域いちご若手生産者の会勉強会を開催

11月16日、JAにしみの平田支店及び生産者ほ場において標記勉強会を開催し、若手生産者、関係機関ら15名が出席した。ほ場では現地検討を実施し、栽培管理の進捗状況、出荷見込みを確認した。また、室内検討では、メーカーから炭酸ガスを活用したハダニ防除の情報提供があった他、農業普及課から厳寒期の管理についての情報提供を行った。会議では、いちご生産者が減少しているため、今後産地をどのようにしていくのか考えようとの意見が出された。

農業普及課では、若手生産者の意見を集約し、今後、西濃地域のいちご生産者を対象とした産地アンケートを実施する予定としている。

住みよい農村づくり

■（農）札野営農 日本農業賞岐阜県代表授与式

海津市の（農）札野営農が日本農業賞集団の部の岐阜県代表として選出され、11月16日に、岐阜市内で授与式が行われた。（農）札野営農は、農地整備の効果による米麦大豆の二年三作で高収益経営を実現していること、経営規模が約100haで地域内のほぼ全域をカバーしていること、経営農地を地図上に見える化して作業の効率化を図っていることなどが評価された。授与式後、服部代表理事があいさつで、受賞できたことのお礼を述べられた。



【日本農業賞授与式】

農業普及課では、土地利用型農業の儲かる農業モデルとして海津市、JAにしみの等、関係機関と連携して継続支援していく。